

第1回万葉オペラ・ラボ公演
万葉朗読劇

山上憶良と遣唐使

好去好来のうた

「奈良市民でつくる万葉オペラ・ラボから、『万葉朗読劇』という新たな芸術ジャンルが誕生します」

——浜畑賢吉



奈良の芸術・文化・文芸の魅力や、市民とともにオペラの研鑽を積みながら探求し、その成果を発信していくことを目的にスタートした、かつてないユニークな芸術文化事業『万葉オペラ・ラボ』。万葉朗読劇『山上憶良と遣唐使～好去好来のうた～』は、その記念すべき第1回公演として企画されました。

* * *

大宝2年(702年)、第7次遣唐使の一人に選ばれ、九州・筑紫から唐へと向かった山上憶良。それは苦勞に苦勞を重ねたのち、43歳にしてようやく手に入れた出世へのチャンスでした。そのチャンスを逸することなく、帰国後は順調に要職を歴任し、ついには貴族の位を得るまでになった憶良でしたが、ある事件の記憶が彼を深い心の闇に迷わせることとなります。

この作品は、そんな憶良の心の動きを、憶良自身によるモノローグを通じて浮かび上がらせようとする試みです。原作・脚本を手がけた奈良大学の上野誠氏によれば「この物語は、物語というよりも、山上憶良と観客との魂の対話を行うための空間を創出することを目指しています。舞台に登場するのは、山上憶良の魂なのです」。

問わず語り語る憶良の半生……出世にのみどん欲だった男が、いつしか人情や慈悲に満ちた作風で知られる歌人へと成長した物語を、名優・浜畑賢吉氏が朗読し、市民合唱団『万葉オペラ・ラボフレンズ』の合唱や群読が加わることで、朗読は朗読の域を超え、「万葉朗読劇」となって来場者の魂を揺さぶります。

2011年10月8日、『万葉オペラ・ラボ』から、「万葉朗読劇」という新たな芸術ジャンルが誕生します。

『万葉オペラ・ラボ』とは

2009年と2010年の6月、日本ロレックスの協力のもと薬師寺玄奘三蔵院の特設舞台上で上演され、話題を集めたオリジナル・オペラ「遣唐使～阿倍仲麻呂～」の初の全四幕完全版上演を、2010年の秋になら100年会館がプロデュース。その成功を礎に、オペラの研鑽を積みながら奈良の芸術・文化・文芸の魅力を探求し、発信する事業として今年の春にスタートしました。なら100年会館が中心となって運営委員会を発足、市民による合唱団「万葉オペラ・ラボフレンズ」と、オペラのソリストを目指して専門的に学ぶ学生や若手演奏家による「万葉オペラ・ラボスタジオ」が中心となって活動を行っています。



平成23年

10月8日(土) 18:00開演(17:30開場)

10月9日(日) 14:00開演(13:30開場)

なら100年会館 中ホール JR奈良駅西口すぐ

【入場チケット】

S席3,000円 A席2,000円(税込)

※小学生未満入場不可

※奈良市高齢者割引適用。全席2割引になります。高齢者割引は奈良市在住70歳以上の方対象。

購入時にチケット販売のある文化施設で、住所・年齢が確認できる公的機関が発行する証明書(免許証等)をご提示ください。

【チケット発売場所】

なら100年会館、学園前ホール、北部会館市民文化ホール、ローソンチケット(0570-084-005/Lコード54640)

【チケット発売開始日】

平成23年8月6日(土)

【電話予約】

なら100年会館 TEL0742-34-0111 ※8月6日(土) 発売初日は午前10時から。通常は午前9時から。

【お問い合わせ】

なら100年会館/奈良市三条宮前町7-1 TEL0742-34-0111(おかけ間違いのないようお願いします)

万葉朗読劇「山上憶良と遣唐使～好去好来のうた～」をよりお楽しみいただくためのプレセミナー

第1回万葉オペラ・ラボ講座 「伝説の万葉歌人・山上憶良ってどんな人？」

原作・脚本の上野誠氏、演出・舞台監督の河田早紀氏、そして「万葉オペラ・ラボ 運営委員会」委員長の三原剛氏他による座談会。万葉朗読劇がますます楽しみになります。

【開催日時】

平成23年7月31日(日) 15:00～16:30

【開催場所】

なら100年会館 中ホール

入場ご希望の方は、往復はがきに住所・氏名・年齢をご記入いただき、なら100年会館へ7月12日(火)までに郵送してください。希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。(当日消印有効/1枚で2人まで入場可能)